出版・エディターコース

Student's Voice

神原 英彰さん
法学部３年

僕は今年、春季のパンフレットで編集長を務めました。説明会に 500 人近い学生が来てくれたことがうれしくて“活字を通して人の心を動かす仕事がしたい”と思うようになり、出版コースを選択しました。出版コースでは、企画を立てたり、作文を書いたりする実践的な授業が多くて、出版社に入るために必要な能力が身についているという実感があります。

阿部 知佳さん
社会学部３年

出版コースでは毎回新しい発見があって、もっと勉強しなくてはいけないと刺激を受けています。出版には幅広い知識が必要なので、私の通う多摩キャンパスで、集まってテストをしています。飲み会も２週間に１回ほどのペースであります。本多さんや出版コースの先輩が参加し、実際に業界で働く人の話が聞ける、貴重な機会となっています。

コース紹介

出版社、編集者を目指す人のためのコース。授業では、雑誌の比較やレイアウトなどの分析を行い、企画を考えるほか、作文力を養うために作文練習を多く行う。講師には、光文社の本多さんをはじめとして、出版社で働く講座出身の先輩方が多く来られる。自主講座として授業前のフリートークやキャンパスごとの時事問題対策の勉強会などを行っている。小学館や講談社などの大手出版社にも、毎年内定者を出している勢いのあるコース。先輩の結束力は講座一番で、授業時には先輩方がアドバイスしてくれるのもこのコースの特徴である。

講師紹介

光文社『女性自身』副編集長
本多 悟

Career pass
'86 年法政大学経済学部卒業。翌年、光文社入社。『ＦＬＡＳＨ』編集部副編集長を経て、現在に至る。『ＦＬＡＳＨ』編集部時代、自主マスの取材に訪れたことがきっかけで、出版コースの講師を担当するようになった。

淡々としている人もいる、それじゃもったいない

出版コース生に本多さんの印象を聞く。すると、『熱い』『義理堅い』といった声が多く挙がる。『女性自身』の副編集長という立場でなく、１人の人間として講座生のことを本気で思ってくれている。代々の出版コース生が彼を慕い、今でも講座に現れる姿からも、彼の人間性がうかがえる。

「出版社に入るためには、自分を知ることが必要になってきます。自分は何ができて何が得意か、また本当に出版がやりたいのかということを意識してほしいと思います」。

出版コースの授業に企画プレゼンテーションというものがあり、２年前、講座生が書いた企画が、当時本多さんが勤めていた雑誌の記事になったことがある。編集者に不可欠となる、柔軟で自由な発想を彼自身が体現している出来事であると感じた。

「出版コースの特色は先輩の結束が固く、毎回の講座やその後の飲み会のときにアドバイスをくれるところです。淡々としている人もいるけど、それじゃもったいないと思う。今までに知らなかった人間と話すことが今後の人生において絶対にプラスになると思う」。

出版社に入社するということだけに目を奪われずに、尊敬できる講師の下、人間性を高める。そのことが結果として、現在の出版コースの躍進につながっている。